

長期欠席・不登校対策のススメ 12号

令和5年9月発行 岡山県教育庁人権教育・生徒指導課

今回は自立応援室(別室)を運営していく上でのポイントを紹介します。

◎心の居場所推進プロジェクト連絡協議会

8月4日(金)に心の居場所推進プロジェクトの連絡協議会を開催しました。自立応援室の実践研究校の担当者が集まり、各校の取組について情報交換を行いました。その中で、県の方針として伝えた内容を抜粋して紹介します。

○ 子どもの思いが反映される柔軟な部屋の運営

- ・児童生徒の登校意欲につながる多様な目的をもった部屋。
- ・選択肢を複数準備し、児童生徒の自己決定の場を設定し、思いを尊重すること。
- ・教職員の見立てだけでなく、子どもの思いや意見を反映。

部屋は1つでも、児童生徒が部屋を利用する目的は1つではありません。多様なニーズに応える柔軟な部屋だからこそ、学びにつながる意欲になります。当事者の声や思いは、よりよい運営に不可欠です。

○ オープンな自立応援室の運営

- ・「登校する」場所や時間で評価しない。
- ・正しい情報を適切に発信。

登校できたという事実を承認しましょう。自立応援室の目的や運営についての正しい情報発信が、誤解や偏見を防ぐことにつながります。

○ チーム学校での持続可能な運営

- ・教職員間の意思統一が大前提。
- ・担当者や一部の教職員に頼らない組織的対応。

不登校の捉えや支援の在り方についての共通理解が、チーム学校としての重層的支援の原点です。持続可能な運営は、一部の教職員だけでは困難です。

自立応援室(別室)や不登校の児童生徒に対して、こんな意見がありませんか？

「自立応援室の居心地が良すぎると教室に戻れない」

- 学校に居心地がいい場所があるなんて素敵だと思いませんか？
- その子にとっての安心・安全な場所が自立応援室以外にも確保されていますか？
- 教室復帰を目標とした場合に、自立応援室の居心地を悪くするのではなく、教室の居心地を良くするという発想の転換を。

「あの子は発達特性があるから」「家庭的背景があるから」

- 発達特性だけで判断していませんか？家庭的背景だけで判断していませんか？
- その子の一部だけでなく、その子の全てを見ようとしていますか？

「学校に来ているのだから、勉強をさせないといけない」

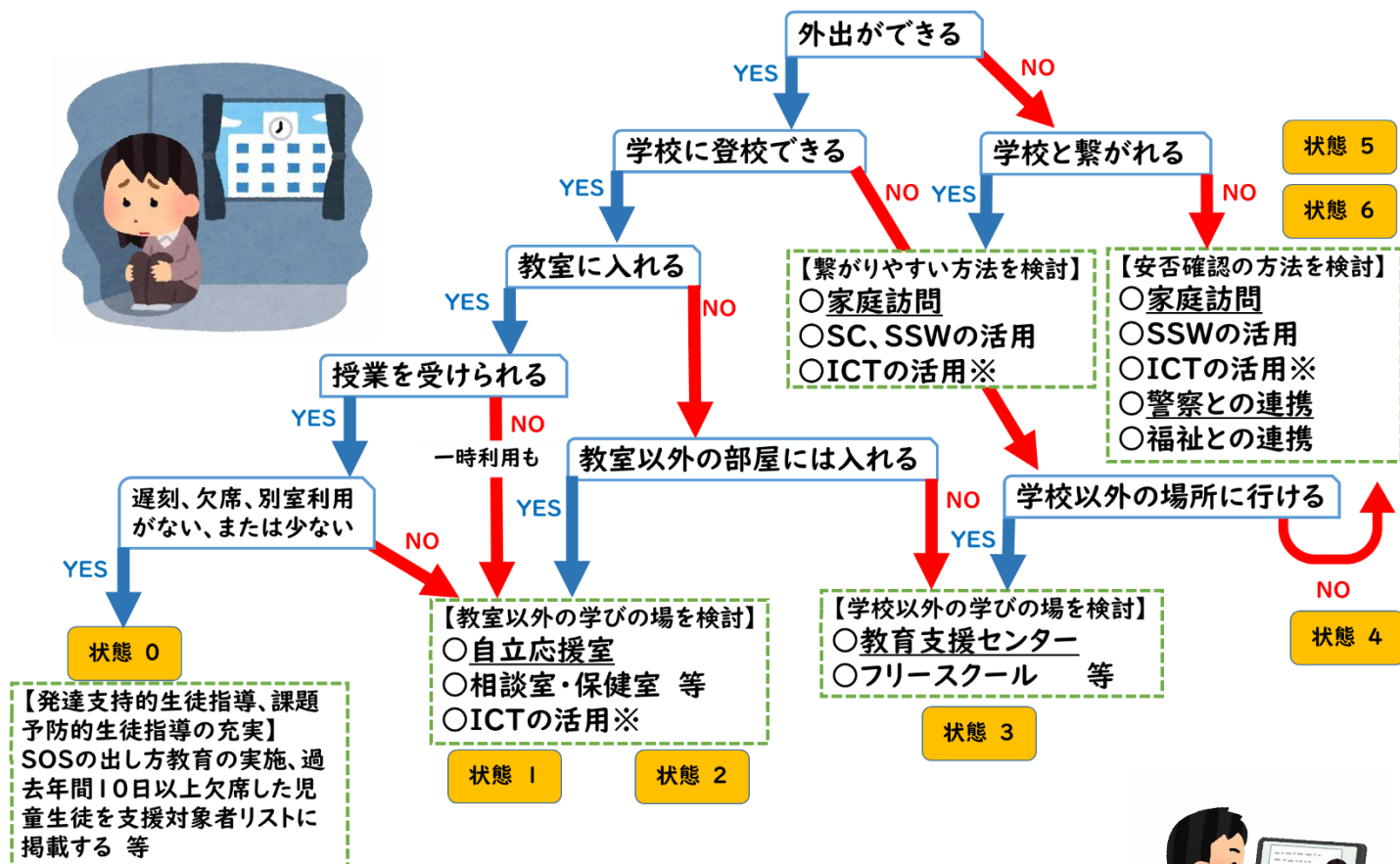
- 学校での学びは、学力だけですか？
- 活動や学びへの意欲は高まっていますか？意欲を引き出す工夫なしに、学習をさせようとしていませんか？
- 学習が苦痛な子どもに、学習だけで登校させようとしていませんか？



◎長期欠席・不登校対策について

下図は、長期欠席・不登校の状態評価フローチャートです。このフローチャートに、全ての児童生徒の状態が当てはまるのかというと、そうではないかもしれません。この図で、大切にしたいのは、どのタイミングでどの支援の提案が適切か、どの機関との連携が必要かということです。全ての児童生徒に対して、指導・支援を行うのは当然ですが、そのことが求められているのは、「学校」だけではなく関係機関も含めた「チーム学校」です。

長期欠席・不登校の状態評価フローチャート



※ICTの活用にも多様な選択肢を

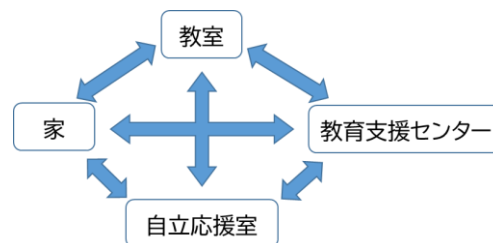
《送信側からの情報を受信できる》

- 顔を合わすことができない・会話ができない
→ 行事や授業の様子を配信、チャット（受信のみ）

《受信した情報に対して、反応や回答等を発信できる》

- 顔を合わすことができない・会話ができる
→ GoogleForms、健康観察、チャット、顔出しなしの音声のみで会話
- 顔を合わすことができる・会話ができる
→ オンライン面談、オンライン授業

《繋がる場所》



◎考えてみよう



- ・みなさんの学校の支援が必要な児童生徒は、フローチャートのどこに位置しますか？
- ・児童生徒の状態を客観的に見立てることができていますか？
- ・状態に応じた適切な支援の提案ができていますか？
- ・社会的自立を視野に入れた関係機関との連携ができていますか？

